

弘前大学「第16回学生相談を考える会」を開催

令和3年3月18日(木)、学生相談に携わる学内の教職員を対象とした「第16回学生相談を考える会」を開催しました。同会は多様化・複雑化する学生相談に適切に対応し、学生への支援体制を充実させようと平成20年度から開催しており、今回で16回目となります。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策連絡会議 学生チームとの共催により、Microsoft Teams を利用したオンライン形式で開催され、学生相談に携わる学内関係者約50人が参加しました。

今年度は、学生からの心理的な相談が急増している状況を受けて、本学保健学研究所 田中 真 助教に、「新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う心理面の対応～とくに自殺予防の観点から～」をテーマに講演・情報提供をしていただきました。

講演では、コロナ禍では不要不急の名のもとに行われる様々な制限が学生に大きな影響を与えていること、身近な人の「死にたい」サインを受け取る感性を高めること、自殺予防には「開かれた対話」から信頼関係を作ることが重要であることなど、具体的な事例を含めた講演が行われました。

その後、田中先生と保健管理センターのカウンセラー、学生特別支援室のコーディネーターによるディスカッションが行われ、参加者から寄せられた具体的な事例に基づいた質問や自ら相談に来ない学生への対応のポイントについて議論を深めるなど、貴重で有意義な時間となりました。

今現在コロナ禍により起こっている事 不要不急の名のもとに・・・

文化・芸術
スポーツ
観光
教育
飲食

それまで当たり前にあったものが次々に無くなっていった・・・

改めて存在のありようとは何かが問われている

学生生活が充実している1年生は56.5% (1983年以降最低)

入学後半年間で

- ・サークルに加入している学生は半数以下【48.7% (前年比34.1ポイント低下)】
- ・4割近くの学生が友達ができない【34.5% (前年比20.3ポイント上昇)】

新型コロナウイルス感染症による人間関係の希薄さが浮き彫りに！
学生生活を楽しくしていない！

【図表15】学生生活は充実しているか (「充実している」+「まあ充実している」)

年	1年生 (%)	2年生 (%)	3年生 (%)	4年生 (%)
85	62	65	68	70
90	70	72	75	78
95	72	75	78	80
00	75	78	80	82
05	78	80	82	85
10	80	82	85	88
15	82	85	88	90
20	56.5	60	65	70

対話のポイント

- ・「あなた」という抽象的な呼び方ではなく、「～さん」と名前と呼ぶ
- ・説得よりも相手の言葉を繰り返す (鏡のように)
- ・相手の話を十分に聞いた後に、その趣旨を要約し、「それなのに」という言葉で、生きたいと望む部分に焦点を当てる言葉を投げかける (両面心理)
- ・開かれた態度で接し、できるだけ自己決定の原則を侵犯しない

大事なことは「今・ここ！」の存在を確かなものにする対話！

それぞれが出来る範囲で、しっかりとセーフティネットをつなごう！

気になる事はなるべく早めに相談するんだよ

重い話は聴けないけどさ、気分転換なら付き合おうよ

週一程度ランチに行こうよ、その時話し聴かせて